

まんさく

第297号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



第三者相談員による「光寿苑のお年寄りを護る会」再開の日〔1月18日 関連:4頁〕

297号もくじ

☆2頁★

* 上半期検証・下半期目標
(介護こまち通り)

☆5頁★

* 想… 災害を捉える

☆8頁★

* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画)

☆3頁★

* 冬の風物詩たちと共に…
(もちつきの会 節分の日)

☆6頁★

* 地域密着型事業紹介
(日常写真 運営推進会議録)

* 「自然法爾」(お寺さんのお話)

☆4頁★

* 光寿苑のお年寄りを護る会
* 寄附・寄贈・訪問等紹介 等

☆7頁★

* 元気です! 家族会♪
* 光寿苑のかお(入居者紹介)

* 「おわりに」

上半期を振り返って、下半期の目標再設定です ~変更箇所:「丸ゴシック体」~

【生活】「⑦介護部門…こまち通り」 ☆加藤千恵子☆

法人キーワード		令和5年度共通のキーワードは『活かす』	
令和5年度上半期のイメージ像	テーマ	知っている知識を活かす	
	理想上半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>★お年寄りの残存機能を活かす。</p> <p>①1日1回離床する ⇒ベッドから離れる事で気分転換をはかる。併せて、シーツのしわを伸ばし、快適な環境づくりができる。</p> <p>②介護技術の向上 ⇒個々の残存機能を活かし、できる事をしていく。</p> <p>③個別ケア ⇒個別ケアを確認し、その人に合った介助方法など、個別にしっかり介助できるようにする。</p>	<p>★今まで知り得た情報を介護に活かす。</p> <p>①言葉を交わす時間 ⇒コミュニケーションを大切にします。</p> <p>②ご家族との関わりを考えた定期的な連絡 ⇒お年寄りの状態を伝える。 ⇒衣類の交換等の連絡をする。</p> <p>③その時のお年寄りの表情を記録する ⇒良い表情を写真に撮っていく。</p>



令和5年度上半期検証【テーマ】	※上半期、コロナ感染者が1名出ましたが、知っている知識を活かし、1名のみで感染者を抑えられた事は良かったと思います。
令和5年度上半期検証【各目標】	<p>目標① ※コロナも落ち着いてきたため、こまち広場へ集まり、テレビを観たり、水分補給をしたり、また、パズルをして楽しむお年寄りも居たりと、居室から出て過ごせるようになり、以前のようにお年寄りの笑顔が戻ってきて良かったと思います。</p> <p>目標② ※お年寄り同士でもコミュニケーションをとったり、職員と会話されたりして過ごす事ができるようになってきました。ご家族にも、衣類の交換(季節ごと)等で連絡をして、最近の様子などを伝える事ができています。</p>



テーマ		知っている知識を活かす	
令和5年度下半期のイメージ像	理想下半期	目標 ①	目標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>★お年寄りの残存機能を活かす。</p> <p>①個別ケア ⇒個別ケアを確認し、その人に合った介助方法など、個別にしっかり介助できるようにする。</p> <p>②介護技術の向上 ⇒個々の残存機能を活かし、できる事をしていく。</p> <p>③1日1回離床する ⇒ベッドから離れる事で気分転換をはかる。併せて、シーツのしわを伸ばし、快適な環境づくりができる。</p>	<p>★今まで知り得た情報を介護に活かす。</p> <p>①言葉を交わす時間 ⇒コミュニケーションを大切にします。</p> <p>②ご家族との関わりを考えた定期的な連絡 ⇒お年寄りの状態を伝える。 ⇒衣類の交換等の連絡をする。</p> <p>③その時のお年寄りの表情を記録する ⇒良い表情を写真に撮っていく。</p>

冬の風物詩と共に…

もちつきの会 【1月12日】

午前と午後に分けて開催。お年寄りたちの掛け声に後押しされてもちつき隊員(職員)も奮闘！しかしながら、計4回のもちつきにはへろへろの隊員たちでした(笑)



節分の日 【2月3日】

幼少期から務めてきた年中行事は、いくつになっても無邪気になれる貴重な時…。



光寿苑のお年寄りを護る会 1月18日

3年ぶりに対面式の護る会が再開。お年寄りの暮らしの中での満足度や要望を第三者相談員が拝聴する会。昔話に移行する事もよくあるけれど、それこそがお年寄りの満足感にも成る等、貴重な時間。



昔はね、とにかく歩いてどこまでも行ったもんですよね♪

お若い頃は、よく歩いていらしたんです？



調理職員

有資格者も無い方も歓迎！

介護職員

有資格者も無い方も歓迎！

事務職員

経験のある方、大歓迎！

職員募集♪

おかげさまでした

寄附

★=光寿苑
☆=ひなたぼっこ

★ 高橋 稔 様 [北上市]

寄贈

- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 石川 アチ 様 [上野々]
- ☆ 高鷹 柳子 様 [湯川]
- ☆ 川尻 農機 様 [小繋沢]
- ☆ 杉谷 政行 様 [横手市]
- ☆ 有馬 正興 様 [仙台市]

面会・外出 [1月1日~31日]

【対面面会】 延べ62名 (対象入居者20名)

訪問

ひなたぼっこ運営推進会議 1月18日
☆ 運営推進会議外部委員 … 9名

お茶会新春民謡ショー 1月21日
☆ お茶会メンバー (鑑賞) … 13名
☆ 西和賀民謡同好会 … 大人6名、子1名

光寿会へのご支援

想...

災害を捉える 宮城県から発信します⑤

『災害を捉える』ことの難しさ…白木澤琴氏



『災害を捉える』ことの難しさ

宮城県の僧侶・白木澤琴さんより5回目のご執筆です。北陸の震災後、揺れ動いた心境の中でしたが、ご自身の感性で筆をとって頂きました。

能登半島地震発生後、災害を捉える」と題されたこの場に、私が記してもいいのかと悩み、宣承さんに相談させて頂いた。

この場が設けられた経緯は、1月に始まる。光寿会の職員の方たちが被災地に赴いた際の報告、災害を経験された方たちの話、災害に向き合われた方たちの思い等が記されてきたことを教えて頂く。

宣承さんからは、現状報告というよりも、「琴さんがこれまで経験した災害の中で怒ったことを書いて下さい」と背中を押して頂いた。よって引き続き、この場をお借りし、私の記憶を辿りながら書かせて頂くことをお許し下さればと思います。

平成15年7月26日。高校3年の夏。宮城県北部連続地震が発生した。一日の内、立て続けに震度のクラスの直下型地震が3度も我が家を襲った。突き上げる強震。タンスが私と妹に倒れ込み、無我無中で押さえたところで、その日の

記憶は途切れているのだった。

この災害で死者は無かったものの、全半壊の家が多数。本堂も傾き、使用できなくなった。

半年以上に亘る修復工事は、困難を極めた。冬には極寒の中、大工さん方が早朝から夜9時頃まで尽力されていた。母は毎日欠かさず、10時と3時には作業の方々にお茶出しをしていた。時にはお夕飯も。家族は自宅の片付けや引越し作業に追われた。父は、お盆には野外法話を行い、多くの方々へ参詣されたという。

受験生だった私は、この災害から目を背けていた。嫌で仕方がなかった。現実から逃れるように、朝から晩まで学校と塾。帰れば部屋に籠る。友人から、「家、大丈夫なの？」と問われても、明るく、「大丈夫！」

と、全く大丈夫ではない心を誤魔化して返事をしていった私。弱さや

辛さ、不安は隠したほうが楽だった。受験のストレスも加わる混乱の中、当時の私は、「災害を捉える」となれど、ただただ逃げたいだけだったと、今さらながら思っている。

多くの方々のご協力のもと、災害の翌年となる平成16年8月1日、本堂の落慶法要が勤修された。その際、住職だった父が読み上げた文章(表白)の一節に、父が大切にしていた金子大栄師(明治昭和期に活躍した真宗大谷派僧侶)の言葉が記されていた。

「念仏とは姿勢だ。これさえ知ってれば軽んじて起きられない。」

と。当時の私は気にも留めない言葉だ。だが、この言葉は、後に襲う東日本大震災の折、大きな指針となり、私たちが真の向から災害に向き合っていく、「原動力」にもなってくれたのだ。

続

今月の登録者の方々

14 名 様 だ す ♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

冷え込む日も増えましたが…「ひなたぼっこの日常」



【左】縫物ならお手のもの♪ 【中】お茶会カード作り 【右】西和賀民謡同好会様来所

第5回『運営推進会議』(1月18日)

△ 外部委員9名、職員4名出席 △

職1 今回は、外部評価のまとめと提出をして頂きます。

季1 自己評価の対象職員が5名と間以上の勤務の職員であり、今回の該当者となるのですね？

職1 その通りです。管理者とケアパート職員は該当しません。

季2 職員千エツクの「地域連絡会」に参加しますか？の設問箇所では、5名中1名のみか「はい」と回答されていますか？

職1 様々な会議がありますが大半は福祉関係の会議です。出席の多くが管理者やケアマネバ占めておりますので、評価対象の職員とすれば「いいえ」が多くなる結果となります。外の会議内容は、後に職員ミーティング等で周知しております。

委3 職員研修の参加の箇所ではバツキがあります。仕事の合間に難しいかも知れませんが、職員研鑽のためにも改善計画にあげるのはいかがでしょうか。

職2 研修は夜間開催も多く、参加

心難しい職員もあるわけですが、読み合わせ研修にする等、工夫をしてどうしたら参加率を上げられるか検討したいですね。

委4 「利用者以外の心配な方への関わり」について、実際の事例等ありますか？

季3 事業所として登録利用者へのサービスマン提供の他に、地元地区でのサロンを毎月開催しており、そこで心配事や悩み事があれば相談に乗れる体制が取れていると思われます。

職3 老夫婦世帯の方で、通院の方法について病院の先生から助言を受けて、私どもの方に電話相談がきた事が一件あります。ケアマネと介護とで自宅に伺い、様々な助言を致しました。現在のところ、事業所登録・利用には至っておりませんが、いつでも相談受入れ体制はとれています。

季1 他の項目で、「運営推進会議」において利用者以外の方の検討がされているか？については、ここでは検討事例がないですね？

職2 今年度は「ない」となりますが、事例あれば今後提出します。

第112回



家族会地域役員
佐々木忠雄氏

112回目は、前回に引き続き、家族会役員の佐々木忠雄さんより一筆いただきました(^_^) それでは、どうぞ〜♪

【サトフル】②、金は無い!

元気です! 家族会♪

私たちは、父・母・姉3人と私の6人家族だった。聞いた話によると、父母は私が生まれる前は父の実家で生活していたそうだが、祖父は馬に荷車や籠を付けて、旧湯田所に炭などを運かそれを売り、結構な財を成していたと言う話を聞いた事がある。しかし、火事があった事で大部が失くしたのだと。本家の所はよく分からない。

一家は私が生まれる前に実家から独立し、近くに家を買い移り住んだ。なので、祖父の顔を私は知らないが、3人の姉は祖父の顔を知っているようだ。自分自身は祖父の長男(伯父)を祖父だと思っていたくらいであった。

父は馬を飼っていて、馬車で炭や荷物を運んだり、山から木材を搬出したりしていたようだ。その頃は裕福ではなかったけれど、ほどほどに生活できるくらいの収入はあったようである。

しかし、車が普及してトラック等で荷役をするようになるのと、仕事が無くなりお金の入らなくなつた。馬をやめ、牛や山羊、ウサギに鶏やハト、猫も飼うようになった。母は何時も、「生き物を飼。たら最後まで責任を持たねばねえ。」と言っていた。両親が生き物好きだったかも知れないが、次第に飼う余裕がなくなつていった。父は出稼ぎに、父の居ない分も母が働く事となり、相当苦勞した。

光寿苑のかお

【入居者紹介】

岩手県江刺市に生まれたというミツ子さん。お代の時に旧沢内村に嫁がれ、旦那さんと一緒に土方の仕事(土建業)をされていたそうです。旦那さんとはとても優しく、いつも甘やかされていたと嬉しそうにお話しされ、リ生まれ変わったも、お父さんと一緒にいたいわ♡と、愛が溢れている様子でした。

今のやさしいミツ子さんがあるのは、愛する旦那さんの存在があったからでしょう♡

これからも宜しくお願いします♡ **瞭**



{ 21世紀になって間もない頃、お孫さんの七五三をお祝いされているミツ子さんご夫妻とのこと♡ }



久保ミツ子さん
上品な笑みと言葉遣い♡
【担当:佐々木瞭、高橋昭子】

光寿会 297号 vol.



イラスト：1000

誰にでも、「虫の居所」が悪い時がある。あるいは、疲れや体調がすぐれない時は、どうしても不機嫌になってしまふものだ。だからこそ、後から謝りたいものだが、これが中々...。この方の実行は、ゆえに美しくすばらしい♪

人皆党有り。また達る者少なし。

聖徳太子

第96回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

人には皆、仲間を作ろうとする心がある。それが原因で争いか絶えないのだが、その道理を達している者は少ない。

(大谷大学訳)

政権党が派閥問題でゆれて

いる。一度静かに、聖徳太子の「十七条憲法」第一条の言葉を味わってみたらどうだろう。

ここで言う「人」は普通の人(凡夫)。自立できないから仲間を求め「党派」を作る。やがて、その党派に縛られ引きずられ、互いに争うことになる。

この「憲法」がベースに置くのは、過ちやすい人々だ。だから「ひとり」で物事を決めてはいけない。必ずみんなで議論して判断しなさい。

ことにはならない。議論を尽くせば、道理あることを知っている人たちの間で成り立つことなのだろうから。

聖徳太子の言うのは「民主社会」のことだろう。ただ、近代の西洋社会のように革命を繰り返して獲得したシステムではない。凡夫の自覚の上に成り立つ社会である。

人皆党有り。また達る者少なし。

おわりに

ご自宅で畑仕事をされている女性の方が、以前こうお話しになった。

「私が畑作業していると、近所の数名のおばあちゃん達が話に来るんですよ。毎日、私が畑にいる時を見計って来るんですけど、見事に全員、其々違う時間に来るんです。一人が帰れば次の一人が来て...という感じですね。飲み物やお菓子、時にはお弁当まで作って本気の語るモードで来ます。そこで世間への不満や愚痴を頻りに吐いていく。毎回同じ話だったりするんですけど、相槌変えたりしながら聴いたり...。ここで少しでも気が晴れるならって思っています。宗教者や福祉がやるべき事を、自然体で実践できる相が尊い。」



必「愚痴の捨て場」とも必要な場所。